

組 番 ()

問一、次の文の () に当てはまるものを答えなさい。

● 短歌は、五・七・五・七・七の合計 () (音の定型詩。)

● 第三句までを上句、第四句以下を下句という。

● 意味や調子の切れ目を句切れという。句点「。」をつけられるところを探す。

● 「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」という。

● 一 (☆) (二) (☆) () (☆は同じ答え) と数える。

問二、次の短歌の——線部の表現技法としてふさわしいものを一つずつ選び記号で答えなさい。

①ししみじみと 障子うす暗き 窓の外

音立てて雨の 降りいでにけり (三ヶ島葎子) () ()

②うらうらと 照れる光に けぶりあひて

咲きしづもれる 山ざくら花 (若山牧水) () ()

③やはらかに 柳あをめる

北上の 岸辺目に見ゆ

泣けとごとくに (石川啄木) () ()

ア、体言止め(結句や句切れを体言でとめて、強めたり、余韻を残したりする。)

イ、比喩(他のものに例える。)

ウ、字余り(定型より字数が多いもの。)

エ、枕詞(ある語を導くために前に置く語。リズムを整えたり印象を強めたりする。)

/10

(2点×5)

組 番)

問一、次の文の()に当てはまるものを答えなさい。

●短歌は、五・七・五・七・七の合計三十一音の()詩。

●第三句までを上句、第四句以下を()の句という。

●意味や調子の切れ目を「句切れ」という。句点「。」をつけられるところを探す。

●「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」という。

●一首、二首と数える。

問二、次のA～Dの短歌を読んで、後の問いに答えなさい。

A のど赤き 玄鳥ふたつ 屋梁にゐて 足乳根の母は 死にたまふなり (斎藤茂吉)

B 春の雨 けふる櫛の 梢より をりをり露の かがやきて落つ (三ヶ島葎子)

C 針の穴 一つ通して きさらぎの 梅咲く空に ぬけてゆかまし (馬場あき子)

D ころよき疲れなるかな
息もつかず

仕事をしたる後のこの疲れ (石川啄木)

(一) 短歌の季節が「春」だとわからないものを一つ選び、記号で答えなさい。()

(二) 次の鑑賞文のうち、C・Dについて述べているものをそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① 懸命に働いた満足感をうたう。新聞社で仕事を得た喜びにあふれ生きがいを感じている。
- ② 病床にあつて新しい発見をした作者の心の弾みが見られる。
- ③ 一気に世界が広がる様子をうたい、自由な心を印象付けている。

C) D)

/10

(2点×5)

問一、次の文の()に当てはまるものを答えなさい。

●短歌は、五・七・五・七・七の合計三十一音の(定型)詩。

●第三句までを上句、第四句以下を(下)の句という。

●意味や調子の切れ目を「句切れ」という。句点「。」をつけられるところを探す。

●「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」という。

●一首、二首と数える。

問二、次のA～Dの短歌を読んで、後の問いに答えなさい。

A のど赤き 玄鳥つばふたつ 屋梁はりにゐて 足乳根たらちねの母は 死にたまふなり (斎藤茂吉)

B 春の雨 けふる 櫛けの 梢こずえより をりオをり露オの かがやきて落つ (三ヶ島霞子)

C 針の穴 一つ通して きさらぎの 梅咲く空に ぬけてゆかまし (馬場あき子)

D ころよき疲れなるかな

息もつかず

仕事をしたる後ののちこの疲れ (石川啄木)

(一) 短歌の季節が「春」だとわからないものを一つ選び、記号で答えなさい。 (D)

(二) 次の鑑賞文のうち、C・Dについて述べているものをそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① 懸命に働いた満足感をうたう。新聞社で仕事を得た喜びにあふれ生きがいを感じている。
 ② 病床にあつて新しい発見をした作者の心の弾みが見られる。
 ③ 一気に世界が広がる様子をうたい、自由な心を印象付けている。

C () ③ () D () ① ()

問一 次の線部の敬語は、後のどれか。() ()の中に記号で答えなさい。

- ① 先生、どうぞ、召しあがってください。() ()
 - ② 父が明日参ります。() ()
 - ③ 今日は良い天気です。() ()
 - ④ わたしはお茶が好きです。() ()
- へ ア、尊敬語 イ、謙讓語 ウ、丁寧語 エ、美化語 〳

問二 次の線部に使われている敬語と同じ種類の敬語を後から選びなさい。

- ① 責任を持って、大切な絵をお送りする。() ()
- ア、お見えになる イ、召し上がる ウ、お知らせする エ、ご覧になる () ()
- ② お客様が絵をご覧になる。() ()
- ア、参る イ、おっしゃる ウ、お目にかかる エ、いただく () ()

問三 次の線部を尊敬語または謙讓語に直しなさい。

- ① 私が山本さんの用意された料理を食べる。() ()
- ② 先生の言うとおりにしたら、上手くできた。() ()

問四 次の文の線部の敬語には使い方のまちがいがある。正しい敬語に直しなさい。

- ① 先生が「こんにちは」と申されました。() ()
- ② わたしの弟は、友達の家でケーキを召しあがった。() ()

/10
(2点×5)

問一 次の線部の敬語は、後のどれか。()の中に記号で答えなさい。

- ① 先生、どうぞ、召しあがってください。 (ア)
- ② 父が明日参ります。 (イ)
- ③ 今日は良い天気です。 (ウ)
- ④ わたしはお茶が好きです。 (エ)
- へ ア、尊敬語 イ、謙讓語 ウ、丁寧語 エ、美化語

問二 次の線部に使われている敬語と同じ種類の敬語を後から選びなさい。

- ① 責任を持って、大切な絵をお送りする。
- ア、お見えになる イ、召し上がる ⑦、お知らせする エ、ご覧になる ()
- ② お客様が絵をご覧になる。
- ア、参る ④、おっしゃる ウ、お目にかかる エ、いただく ()

問三 次の線部を尊敬語または謙讓語に直しなさい。

- ① 私が山本さんの用意された料理を食べる。 (いただく)
- ② 先生の言うとおりにしたら、上手くできた。 (おっしゃる)

問四 次の文の線部の敬語には使い方のまちがいがある。正しい敬語に直しなさい。

- ① 先生が「こんにちは」と申されました。(おっしゃいました)
- ② わたしの弟は、友達の家でケーキを召しあがった。(いただいた)

組 番 ()

問一 次の線部の敬語は、後のどれか。() () ()の中に記号で答えなさい。

- ① こちらが控え室でございます。() ()
 - ② このお菓子がとても好きです。() ()
 - ③ 渡辺君のお父さんから、誕生祝いをいただいた。() ()
 - ④ お客様、どちらへおいでですか。() ()
- へ ア、尊敬語 イ、謙讓語 ウ、丁寧語 エ、美化語 ｖ

問二 次の線部に使われている敬語と同じ種類の敬語を後から選びなさい。

- ① 弟が、先生の絵を拝見する。
ア、いらっしゃる イ、くださる ウ、伺う エ、おっしゃる () ()
- ② お客様が、ご挨拶なさる。
ア、おる イ、いただく ウ、承る エ、くださる () ()

問三 次の線部を尊敬語または謙讓語に直しなさい。

- ① お客様がこの和室で書道をする。() ()
- ② 私は、決してうそは言いません。() ()

問四 次の文の線部の敬語には使い方のまちがいがある。正しい敬語に直しなさい。

- ① お客様は、私の家におります。() ()
- ② 姉が青木様の家にいらつしやった。() ()

/10

(2点×5)

問一 次の線部の敬語は、後のどれか。()の中に記号で答えなさい。

- ① こちらが控え室でございます。(ウ)
- ② このお菓子がとても好きです。(エ)
- ③ 渡辺君のお父さんから、誕生日をいただいた。(イ)
- ④ お客様、どちらへおいでですか。(ア)

ア、尊敬語 イ、謙讓語 ウ、丁寧語 エ、美化語 ヱ

問二 次の線部に使われている敬語と同じ種類の敬語を後から選びなさい。

- ① 弟が、先生の絵を拝見する。
ア、いらっしゃる イ、くださる ㊦、伺う エ、おっしゃる ()
- ② お客様が、ご挨拶なさる。
ア、おる イ、いただく ウ、承る ㊧、くださる ()

問三 次の線部を尊敬語または謙讓語に直しなさい。

- ① お客様がこの和室で書道をする。(なさる)
- ② 私は、決してうそは言いません。(申し)

問四 次の文の線部の敬語には使い方のまちがいがある。正しい敬語に直しなさい。

- ① お客様は、私の家におります。(いらっしゃいます)
- ② 姉が青木様の家にいらっしゃった。(伺った・参った)

組 番)

問一 例のア～エにならない、返り点に従って読む順番を書き入れなさい。

例 ア、②①。

イ、③①②。

ウ、①④③②。

エ、①③②⑥④⑤。

一、○レ○○レ○。

二、○レ○レ○○。

三、○レ○○レ○。

四、○レ○○レ○レ○。

五、○○レ○。

六、○○レ○レ○。

七、○○レ○レ○。

八、○○レ○レ○。

問二 例にならって、あとの二問を、書き下し文に直して書きなさい。

例 少年易レ老 (少年老い易く)

かしよあたる ばんきんニ

一、家書抵ニ万金一 ()

たレテ ヲ ヲ ヲ

二、低レ頭思ニ故郷一 ()

)

)

/10

(1点×10)

問一 例のア～エにならない、返り点に従って読む順番を書き入れなさい。

例

ア、②_レ①。

イ、③_二①_一②。

ウ、①④_レ③_レ②。

エ、①③_レ②_二⑥_二④⑤_一。

一、②_レ①④_レ③。

二、③_レ②_レ①④⑤。

三、②_レ①③⑤_レ④。

四、②_レ①③④⑦_レ⑥_レ⑤。

五、①④_二②③_一。

六、①④_二②③_一⑦_二⑤⑥_一。

七、①⑥_二②③⑤_一④⑦⑧。

八、①③_レ②⑥_二④⑤_一。

問二 例にならって、あとの二問を、書き下し文に直して書きなさい。

例

少年易_{やすク}老_イ（少年老い易く）
かしよあたる ばんぎんニ

一、家書抵_{たレテ}ニ万金_ヲ一（家書万金に抵る）

二、低_レ頭思_ヲニ故郷_一一（頭を低れて故郷を思ふ）

組 番 ()

問一 例のア、エにならない、返り点に従って読む順番を書き入れなさい。

例	ア、	②	レ	①	。	イ、	③	ニ	①	②	。							
	ウ、	①	④	レ	③	レ	②	。	エ、	①	③	レ	②	⑥	ニ	④	⑤	。

一、○○ニ○○○○。

二、○○ニ○○㇇。

三、○㇇○○㇇。

四、○㇇○○㇇。

五、○ニ○㇇○○㇇。

六、○㇇○○。

問二、次の漢文を、書き下し文に直して書きなさい。

一、好^ムレ学^ヲ。()

二、山^ハ青^クシテ花^ハ欲^スレ然^エント。()

そふひとニ

三、宋人^ニ有^リニ耕^スレ田^ヲ者^一。()

しゅんみん ず エ あかつきヲ

四、春眠^不レ覚^レ暁。()

/10

(1点×10)

問一 例のア→エにならない、返り点に従って読む順番を書き入れなさい。

一、 ①⑥_二②③④⑤_一。

二、 ①⑤_二②④_一③。

三、 ②_レ①④_レ③。

四、 ③_レ②_レ①。

五、 ⑤_二②_レ①④_一③。

六、 ②_レ①③。

問二、次の漢文を、書き下し文に直して書きなさい。

一、学を好む。

二、山は青くして花は然えんと欲す。

三、宋人に田を耕す者有り。

四、春眠曉を覚えぬ

※「不_ず」のように、日本語の助詞・助動詞にあたる漢字はひらがなにする。

組 番 ()

問一 次のア～コの中から動詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 野球 イ 見る ウ はい エ うれしい オ きれいだ
カ ある キ 引越す ク とても ケ 取る コ 大きな

問二 次の傍線部の動詞を言い切りの形に直して、()の中に書きなさい。

- ① 明日、晴れたら海に行こう。()
② 弟は野菜を食べない。()
③ 強い意志をもつて最後までやり遂げる。()

問三 次の傍線部の動詞について、その語幹の部分を()の中に書きなさい。

- ① 手を洗うために水道へ行く。()
② 宿題を忘れてしまった。()
③ 君がやるならば僕も従おう。()

問四 次の()にあてはまるように、【 】の動詞を活用させて書き入れなさい。

- ① さっそくその場所へ()う。 【行く】
② 空港から飛行機が()ます。 【飛ぶ】
③ 甘い食べ物はなるべく()ています。 【ひかえる】

10

(1点×10)

問一 次のア～コの中から動詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 野球 ④ 見る ウ はい エ うれしい オ きれいだ
 ⑥ ある ⑦ 引越す ク とても ⑧ 取る コ 大きな

問二 次の傍線部の動詞を言い切りの形に直して、()の中に書きなさい。

① 明日、晴れたら海に行こう。 () 行く

② 弟は野菜を食べない。 () 食べる

③ 強い意志をもつて最後までやり遂げる。 () もつ

問三 次の傍線部の動詞について、その語幹の部分を()の中に書きなさい。

① 手を洗うために水道へ行く。 () あら ※ 漢字可

② 宿題を忘れてしまった。 () わす ※ 漢字可

③ 君がやるならば僕も従おう。 () や

問四 次の()にあてはまるように、【 】の動詞を活用させて書き入れなさい。

① さっそくその場所へ()行く。 【行く】

② 空港から飛行機が()飛び()ます。 【飛ぶ】

③ 甘い食べ物はなるべく()ひかえ()ています。 【ひかえる】

組 番 ()

問一 次のア～コの中から動詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 動く イ やはり ウ 違う エ 話す オ 歩く
カ いいえ キ 勉強する ク すごく ケ まるで コ 聞く

問二 次の傍線部の動詞を言い切りの形に直して、()の中に書きなさい。

- ① 次は必ずゴールを決めてみせる。 ()
② テレビを見ながら勉強をする。 ()
③ 「宝くじが当たればいいのにな」 ()

問三 次の傍線部の動詞について、その語幹の部分を()の中に書きなさい。

- ① スポーツドリンクを飲む。 ()
② 明日は早く起きる。 ()
③ 時間切れで試合が終わる。 ()

問四 次の()にあてはまるように、【 】の動詞を活用させて書き入れなさい。

- ① 「図書館で一緒に()よう。【勉強する】
② 明日は早いからもう()ます。【寝る】
③ 七時に()ば大丈夫です。【起きる】

10

(1点×10)

問一 次のア～コの中から動詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 動く イ やはり ウ 違う エ 話す オ 歩く
 カ いいえ ケ 勉強する ク すごく ケ まるで コ 聞く

問二 次の傍線部の動詞を言い切りの形に直して、() の中に書きなさい。

- ① 次は必ずゴールを決めてみせる。 () 決める ()
 ② テレビを見ながら勉強をする。 () 見る ()
 ③ 「宝くじが当たればいいのにな」 () 当たる ()

問三 次の傍線部の動詞について、その語幹の部分() の中に書きなさい。

- ① スポーツドリンクを飲む。 () の () ※ 漢字可
 ② 明日は早く起きる。 () お () ※ 漢字可
 ③ 時間切れで試合が終わる。 () おわ () ※ 漢字可

問四 次の() にあてはまるように、【 】の動詞を活用させて書き入れなさい。

- ① 「図書館と一緒に() 勉強し () よう。 【勉強する】
 ② 明日は早いからもう() 寝 () ます。 【寝る】
 ③ 七時に() 起きれ () ば大丈夫です。 【起きる】

組 番 ()

問一 左の活用表を完成させなさい。

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用の 重負
走る	語幹 主な続き 方	―よう ―う ―ない	―て ―た ―ます	―。	―の ―とき ―で	―ば	―。	
転ぶ								
話す								
書く								
起きる								
見る								
食べる								
寝る								
来る								
する								

／ 10
(1点×10)

問一 左の活用表を完成させなさい。

する	来る	寝る	食べる	見る	起きる	書く	話す	転ぶ	走る		基本形
○	○	○	た	○	お	か	はな	ころ	はし	語幹 主な続き方	語幹
さし・せ	こ	ね	べ	み	き	こか	そさ	ぼば	ろら	ーよう ーう ーない	未然形
し	き	ね	べ	み	き	いき	し	んび	つり	ーて ーた ーます	連用形
する	くる	ねる	べる	みる	きる	く	す	ぶ	る	！	終止形
する	くる	ねる	べる	みる	きる	く	す	ぶ	る	ーので ーとき	連体形
すれ	くれ	ねれ	べれ	みれ	きれ	け	せ	べ	れ	ーば	仮定形
しろ	こい	ねろ	べろ	みろ	きろ	け	せ	べ	れ	！	命令形
サ行変格活用	カ行変格活用	下一段活用	下一段活用	上一段活用	上一段活用	五段活用	五段活用	五段活用	五段活用		活用 の

組 番 ()

問一 次の傍線部の動詞の活用の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 勉強をする。 () ()
- ② 本を借りる。 () ()
- ③ 母が来る。 () ()
- ④ テストを受ける。 () ()
- ⑤ 空を飛ぶ。 () ()
- ア 五段活用 イ 上二段活用 ウ 下二段活用
- エ カ行変格活用 オ サ行変格活用

問二 次の傍線部の動詞の活用形をあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 明日は、早く起きよう。 () ()
- ② ここに来れば、安心だ。 () ()
- ③ 小鳥が空を飛んでいった。 () ()
- ④ 絵を描くことが好きだ。 () ()
- ⑤ 甘い考えは捨てる！ () ()

- ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形
- エ 連体形 オ 仮定形 カ 命令形

10
(1点×10)

問一 次の傍線部の動詞の活用の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 勉強をする。 (オ)
- ② 本を借りる。 (イ)
- ③ 母が来る。 (エ)
- ④ テストを受ける。 (ウ)
- ⑤ 空を飛ぶ。 (ア)
- ア 五段活用 イ 上二段活用 ウ 下二段活用
- エ カ行変格活用 オ サ行変格活用

問二 次の傍線部の動詞の活用形をあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 明日は、早く起きよう。 (ア)
- ② ここに来れば、安心だ。 (オ)
- ③ 小鳥が空を飛んでいった。 (イ)
- ④ 絵を描くことが好きだ。 (エ)
- ⑤ 甘い考えは捨てる！ (カ)
- ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形
- エ 連体形 オ 仮定形 カ 命令形

組 番 ()

問一 次のア～コの中から形容詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 食べる イ しかし ウ 小さい エ きれいな オ たまたま
カ 新しい キ テレビ ク 近づく ケ いいえ コ 明るい

問二 形容詞「暑い」が後に続くように活用させて () の中に書き入れなさい。

- ① 昨日はとても () した。
② 今年の夏はそれほど () ない
③ どれだけ () うとも、がまんしよう。
④ () ばクーラーをつけよう。

問三 次のア～コの中から形容動詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア ゆかいだ イ 箱 ウ 泳ぐ エ 元気だ オ 手紙だ
カ 不思議だ キ およそ ク ていねいだ ケ さわやかだ コ 大きな

問四 形容動詞「静かだ」を後に続く形に活用させて () の中に書き入れなさい。

- ① 電車の中では () しよう。
② () 場所で本を読む。
③ 彼はいつも () ある。
④ 図書館の中はきつと () う。

10

(1点×10)

問一 次のア～コの中から形容詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 食べる イ しかし ① 小さい エ きれいな オ たまたま
 ② 新しい キ テレビ ク 近づく ケ いいえ ② 明るい

問二 形容詞「暑い」が後に続くように活用させて()の中に書き入れなさい。

- ① 昨日はとても()暑かつ()た。
 ② 今年の夏はそれほど()暑く()ない
 ③ どれだけ()暑かる()うとも、がまんしよう。
 ④ ()暑けれ()ばクーラーをつけよう。

問三 次のア～コの中から形容動詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ① ゆかいだ イ 箱 ウ 泳ぐ ② 元気だ オ 手紙だ
 ③ 不思議だ キ およそ ③ ていねいだ ④ さわやかだ コ 大きな

問四 形容動詞「静かだ」を後に続く形に活用させて()の中に書き入れなさい。

- ① 電車の中では()静かに()しよう。
 ② ()静かな()場所で本を読む。
 ③ 彼はいつも()静かで()ある。
 ④ 図書館の中はきつと()静かだろ()う。

組 番 ()

問一 次のア～コの中から形容詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 白い イ やつと ウ 流れる エ 大きい オ ところで
カ その キ いつも ク 苦い ケ すべる コ 新しい

問二 形容詞「甘い」が後に続くように活用させて () の中に書き入れなさい。

- ① 私はあまり () ないケーキが好きです。
② ものすごく () うとも、全くかまいません。
③ 練習メニューが () ば、試合には勝てない。
④ 私の計画が () たので、失敗してしまった。

問三 次のア～コの中から形容動詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 豊かだ イ いつも ウ 健康だ エ 見る オ ものすごく
カ まるで キ 静かだ ク 食べる ケ 黒い コ 軽やかだ

問四 形容詞「きれいだ」を後に続く形に活用させて () の中に書き入れなさい。

- ① 自分の部屋はいつも () しよう。
② 彼のロッカーはいつも () ある。
③ あの川の水は () う。
④ () 教室だと勉強もはかどる。

10

(1点×10)

問一 次のア～コの中から形容詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 白い イ やつと ウ 流れる エ 大きい オ ところで
 カ その キ いつも ク 苦い ケ すべる コ 新しい

問二 形容詞「甘い」が後に続くように活用させて()の中に書き入れなさい。

- ① 私はあまり(甘く) ないケーキが好きです。
 ② ものすごく(甘かる) うとも、全くかまいません。
 ③ 練習メニューが(甘けれ) ば、試合には勝てない。
 ④ 私の計画が(甘かつ) たので、失敗してしまった。

問三 次のア～コの中から形容動詞を選び出し、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 豊かだ イ いつも ウ 健康だ エ 見る オ ものすごく
 カ まるで キ 静かだ ク 食べる ケ 黒い コ 軽やかだ

問四 形容詞「きれいだ」を後に続く形に活用させて()の中に書き入れなさい。

- ① 自分の部屋はいつも(きれいに) しよう。
 ② 彼のロッカーはいつも(きれいで) ある。
 ③ あの川の水は(きれいだろ) う。
 ④ (きれいな) 教室だと勉強もはかどる。

組 番 ()

問一 次の活用表を完成させなさい。(一行完答で1点)

基本形	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	主な続き方	語幹						
元気です						(です)	○	○
静かだ								○
美しい								○
	主な続き方	語幹	う	た ない なる ます	!	とき で	ば	!

*ーごさいます 形容詞のみ

問二 次の——線部が形容詞ならA、形容動詞ならBと書きなさい。また、活用形を書きなさい。

- ① 今日も嬉しいことがあった。()形
- ② 変な音が聞こえてくる。()形
- ③ 急に雨が降ってきた。()形
- ④ 悲しければ、泣いたっていい。()形
- ⑤ あの時計は正確だろう。()形
- ⑥ 色をきれいに塗ろう。()形
- ⑦ この荷物は重かった。()形

/ 10
(1点×10)

問一 次の活用表を完成させなさい。(一行完答で1点)

基本形	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	主な続き方	語幹						
元気です	げんき	でしよ	でし	です	(です)	○	○	
静かだ	しずか	だろ	にでだっ	だ	な	なら	○	
美しい	うつくし	かる	うくかっ	い	い	けれ	○	
		う	* —いざいます —ない —なる	!	—とき —ので	—ば	!	

*—いざいます 形容詞のみ

問二 次の——線部が形容詞ならA、形容動詞ならBと書きなさい。また、活用形を書きなさい。

- ① 今日も嬉しいことがあった。 (A) ・ 連体形
- ② 変な音が聞こえてくる。 (B) ・ 連体形
- ③ 急に雨が降ってきた。 (A) ・ 連用形
- ④ 悲しければ、泣いたっていい。 (B) ・ 仮定形
- ⑤ あの時計は正確だろう。 (A) ・ 未然形
- ⑥ 色をきれいに塗ろう。 (B) ・ 連用形
- ⑦ この荷物は重かった。 (A) ・ 連体形

組 番 ()

問一 次の各文の —— 線部の名詞の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 僕は、この夏、富士山に登った。 ()
- ② 明日は八時に集合だ。 ()
- ③ 君のいうとおりだ。 ()
- ④ 先生からの手紙を読んだ。 ()

ア 普通名詞	イ 固有名詞	ウ 数詞	エ 形式名詞
--------	--------	------	--------

問二 次の各文から代名詞を一つずつ抜き出しなさい。

- ① 彼はすぐに自分の部屋に入ってしまった。 ()
- ② 入口はそちらにある。 ()

問三 次のア～コの中から名詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 大きな
- イ 犬
- ウ 歌う
- エ あなた
- オ もし
- カ 竹取物語
- キ きれいだ
- ク わたし
- ケ はい
- コ しかし

問四 次の各文の名詞にすべて —— 線を引きなさい。

- ① 看護師は わたしの あこがれの 職業だ。
- ② 庭に きれいな あじさいが 咲いて いる。
- ③ 合唱団の 歌声が 講堂に 響き渡った。

/ 10
(1点×10)

問一 次の各文の —— 線部の名詞の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 僕は、この夏、富士山に登った。 () イ
- ② 明日は八時に集合だ。 () ウ
- ③ 君のいうとおりだ。 () エ
- ④ 先生からの手紙を読んだ。 () ア

ア 普通名詞	イ 固有名詞	ウ 数詞	エ 形式名詞
--------	--------	------	--------

問二 次の各文から代名詞を一つずつ抜き出しなさい。

- ① 彼はすぐに自分の部屋に入ってしまった。 () 彼
- ② 入口はそちらにある。 () そちら

問三 次のア～コの中から名詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア 大きな (イ) 犬 ウ 歌う (エ) あなた オ もし
- (カ) 竹取物語 キ きれいだ (ク) わたし ケ はい コ しかし

問四 次の各文の名詞にすべて —— 線を引きなさい。

- ① 看護師はわたしのあこがれの職業だ。
- ② 庭にきれいなあじさいが咲いている。
- ③ 合唱団の歌声が講堂に響き渡った。

組 番 ()

問一 次の各文の —— 線部の名詞の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 涼しい風が吹く。 ()
- ② リレーで一位になった。 ()
- ③ 竹取物語を読む。 ()
- ④ そんなはずはない。 ()

ア 普通名詞	イ 固有名詞	ウ 数詞	エ 形式名詞
--------	--------	------	--------

問二 次の各文から代名詞を一つずつ抜き出しなさい。

- ① 私は校庭を三周走った。 ()
- ② 母がパンを作ったので、おやつにそれを食べた。 ()

問三 次のア～コの中から名詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア あらゆる
- イ 走る
- ウ 作品
- エ はい
- オ かなり
- カ 東京駅
- キ おだやかだ
- ク 七月
- ケ けれども
- コ 彼女

問四 次の各文の名詞にすべて —— 線を引きなさい。

- ① 音楽会は中学校の体育館で行われる。
- ② 公園で二人の少女が遊んでいた。
- ③ 夏目漱石の「こころ」という作品を読んで感想文を書いた。

／ 10
(1点×10)

問一 次の各文の —— 線部の名詞の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 涼しい風が吹く。 () ア
- ② リレーで一位になった。 () ウ
- ③ 竹取物語を読む。 () イ
- ④ そんなはずはない。 () エ

ア 普通名詞	イ 固有名詞	ウ 数詞	エ 形式名詞
--------	--------	------	--------

問二 次の各文から代名詞を一つずつ抜き出しなさい。

- ① 私は校庭を三周走った。 () 私
- ② 母がパンを作ったので、おやつにそれを食べた。 () それ

問三 次のア～コの中から名詞を選び、その記号を○で囲みなさい。(完答)

- ア あらゆる イ 走る ウ 作品 エ はい オ かなり
- カ 東京駅 キ おだやかだ ク 七月 ケ けれども コ 彼女

問四 次の各文の名詞にすべて —— 線を引きなさい。

- ① 音楽会は中学校の体育館で行われる。
- ② 公園で二人の少女が遊んでいた。
- ③ 夏目漱石の「こころ」という作品を読んで感想文を書いた。

組 番 ()

問一 次の各文の連体詞に ——— 線を引きなさい。

- ① わが母校は野球の伝統校だ。
- ② その絵は僕が描いたものだ。
- ③ 小さな花が咲いている。

問二 次の各組の ——— 線部のうち、連体詞であるものはどちらか。記号で答えなさい。

- ①
 - ア それはおかしな話だ。 ()
 - イ 彼はとてもまじめな人だ。 ()
- ②
 - ア ぼくの家には大きな桜の木がある。 ()
 - イ ある朝のできごと。 ()

問三 次の各文の ——— 線部はあとのどの副詞にあたるか。記号で答えなさい。

- ① もし雨が降ったら延期になる。 ()
- ② 山頂がはっきり見える。 ()
- ③ 今年の夏はかなり暑いそうだ。 ()

ア 状態の副詞 イ 程度の副詞 ウ 呼応の副詞

問四 次の各文の ——— 線部に呼応するように、空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

- ① おそらく明日は晴れる ()。
- ② たとえ月日が流れ ()、私は決して忘れ ()。

/ 10
(1点×10)

問一 次の各文の連体詞に —— 線を引きなさい。

- ① わが母校は野球の伝統校だ。
- ② その絵は僕が描いたものだ。
- ③ 小さな花が咲いている。

問二 次の各組の —— 線部のうち、連体詞であるものはどちらか。記号で答えなさい。

- ①
 - ア それはおかしな話だ。 ()
 - イ 彼はとてもまじめな人だ。 ()
- ②
 - ア ぼくの家には大きな桜の木がある。 ()
 - イ ある朝のできごと。 ()

問三 次の各文の —— 線部はあとのどの副詞にあたるか。記号で答えなさい。

- ① もし雨が降ったら延期になる。 ()
- ② 山頂がはつきり見える。 ()
- ③ 今年の夏はかなり暑いそうだ。 ()

ア 状態の副詞 イ 程度の副詞 ウ 呼応の副詞

問四 次の各文の —— 線部に呼応するように、空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

- ① おそらく明日は晴れる (だろう・でしょう)。
- ② たとえ月日が流れ (ても)、私は決して忘れ (ない・ません)。

組 番 ()

問一 次の各文の連体詞に ——— 線を引きなさい。

- ① あらゆる可能性を想定しよう。
- ② 彼はいわゆる知識人だ。
- ③ どの辞典で調べるべきなのか。

問二 次の各組の ——— 線部のうち、連体詞であるものはどちらか。記号で答えなさい。

- ①
 - ア あれは箱だ。 ()
 - イ あの箱は何だろう。 ()
- ②
 - ア 大きな建物が見える。 ()
 - イ みごとな花が並んでいる。 ()

問三 次の各文の ——— 線部はあとのどの副詞にあたるか。記号で答えなさい。

- ① もつと前に並ぼう。 ()
 - ② 雪の中での作業は決して楽ではない。 ()
 - ③ 出発の日がだんだん近づいてくる。 ()
- ア 状態の副詞 イ 程度の副詞 ウ 呼応の副詞

問四 次の各文の ——— 線部に呼応するように、空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

- ① たぶん明日は雨が降る ()。
- ② 仲間との思い出を決して忘れ ()。

／ 10

(1点×10)

問一 次の各文の連体詞に —— 線を引きなさい。

- ① あらゆる可能性を想定しよう。
- ② 彼はいわゆる知識人だ。
- ③ どの辞典で調べるべきなのか。

問二 次の各組の —— 線部のうち、連体詞であるものはどちらか。記号で答えなさい。

- ①
 - ア あれは箱だ。 (イ)
 - イ あの箱は何だろう。()
- ②
 - ア 大きな建物が見える。(ア)
 - イ みごとな花が並んでいる。()

問三 次の各文の —— 線部はあとのどの副詞にあたるか。記号で答えなさい。

- ① もっと前に並ぼう。(イ)
 - ② 雪の中での作業は決して楽ではない。(ウ)
 - ③ 出発の日がだんだん近づいてくる。(ア)
- ア 状態の副詞 イ 程度の副詞 ウ 呼応の副詞

問四 次の各文の —— 線部に呼応するように、空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

- ① たぶん明日は雨が降る(だろう・でしょう)。
- ② 仲間との思い出を決して忘れ(ない・ません)。

組 番 ()

問一 次の()にあてはまる助詞を後の選択肢の中から選んで書き入れなさい。

- ① この手段() 方法がない。
- ② 明日晴れれ()、体育祭が開催される。
- ③ 彼() とても礼儀正しい。
- ④ 熱がある() 早退する。
- ⑤ この小説() 主人公みたいになりたい。

ば しか は ので の

問二 次の()にあてはまる助詞を下の《 》の中から選んで書き入れなさい。

- ① 元気になった ()、学校を休みます。
《の》
- ② 得意科目 () 勉強する。
《しか だけ》
- () 勉強しない。
- ()、学校に行きます。
《の》

問三 次の傍線の助詞と同じ意味で使われているものを、ア～ウの中から選んで記号を○で囲みなさい。

- ① 本を読むのが好きだ。
ア 花に水をやるのをやめる。
イ 桜の花が咲く季節になった。
ウ 弟の植えた朝顔が咲いた。
- ② 大きな木からカヌーを作る。
ア 熱があるから学校を休む。
イ 友達の家から帰宅する。
ウ 牛乳からバターを作る。
- ③ すべてが失敗に終わった。
ア 道ばたにタンポポの花が咲いている。
イ 友達と川へ魚つりに行きました。
ウ 島田君が生徒会の委員長に選ばれた。

／10
(1点×10)

問一 次の()にあてはまる助詞を後の選択肢の中から選んで書き入れなさい。

- ① この手段(しか)方法がない。
- ② 明日晴れれ(ば)、体育祭が開催される。
- ③ 彼(は)とても礼儀正しい。
- ④ 熱がある(ので)早退する。
- ⑤ この小説(の)主人公みたいになりたい。

ば しか は ので の

問二 次の()にあてはまる助詞を下の《 》の中から選んで書き入れなさい。

- ① 元気になった () ()、学校を休みます。 《の》 《ので》
- () ()、学校に行きます。 《の》 《ので》

- ② 得意科目 () ()、勉強する。 《しか》 《だけ》
- () ()、勉強しない。 《しか》 《だけ》

問三 次の傍線の助詞と同じ意味で使われているものを、ア～ウの中から選んで記号を○で囲みなさい。

- ① 本を読むのが好きだ。
- ㉞ 花に水をやるのをやめる。
- イ 桜の花が咲く季節になった。
- ウ 弟の植えた朝顔が咲いた。

- ② 大きな木からカヌーを作る。
- ア 熱があるから学校を休む。
- イ 友達の家から帰宅する。
- ㉞ 牛乳からバターを作る。

- ③ すべてが失敗に終わった。
- ア 道ばたにタンポポの花が咲いている。
- イ 友達と川へ魚つりに行きました。
- ㉞ 島田君が生徒会の委員長に選ばれた。

組 番 ()

問一 次の()にあてはまる助詞を後の選択肢の中から選んで書き入れなさい。

- ① 明日() 雨が降るでしょう。
- ② 風邪を引いた()、安静にしている。
- ③ 君がやるなら()、僕もやろう。
- ④ どうしてもやらなければいけない() ?
- ⑤ 君() やれる人はいない。

ば しか は ので の

問二 次の()にあてはまる助詞を下の《 》の中から選んで書き入れなさい。

- ① 雨がふった ()、家で遊ぶことにする。 《の》
- ()、外で鬼ごっこをした。 《に》

- ② 野菜 () 食べない。 《しか》
- () 食べる。 《だけ》

問三 次の傍線の助詞と同じ意味で使われているものを、ア～ウの中から選んで記号を○で囲みなさい。

- ① 猫と遊ぶのが好きだ。
 - ア 私は毛並みのきれいな犬を飼っている。
 - イ 小鳥の鳴き声はかわいい。
 - ウ 野良犬が吠えるのを止める。

- ② 家から駅まで歩いていく。
 - ア 一本の木からカヌーを作る。
 - イ 体調がよくないから今日はゆっくり休もう。
 - ウ 今日から早起きを始めた。

- ③ 今日はなんだか雨でも降りそうな気配だ。
 - ア テレビでも見ようか。
 - イ 急いでも間に合わない。
 - ウ それぐらいは子供でも知っている。

/ 10

(1点×10)

問一 次の()にあてはまる助詞を後の選択肢の中から選んで書き入れなさい。

- ① 明日()は()雨が降るでしょう。
- ② 風邪を引いた()ので()、安静にしている。
- ③ 君がやるなら()ば()、僕もやろう。
- ④ どうしてもやらなければいけない()の()？
- ⑤ 君()しか()やれる人はいない。

ば しか は ので の

問二 次の()にあてはまる助詞を下の《 》の中から選んで書き入れなさい。

- ① 雨がふった()ので()、家で遊ぶことにする。
《の》
- ()の()、外で鬼ごっこをした。
《に》

- ② 野菜()しか()食べない。
《しか》
- ()だけ()食べる。
《だけ》

問三 次の傍線の助詞と同じ意味で使われているものを、ア～ウの中から選んで記号を○で囲みなさい。

- ① 猫と遊ぶのが好きだ。
ア 私は毛並みのきれいな犬を飼っている。
イ 小鳥の鳴き声はかわいい。
ウ 野良犬が吠えるのを止める。

- ② 家から駅まで歩いていく。
ア 一本の木からカーを作る。
イ 体調がよくないから今日はゆっくり休もう。
ウ 今日から早起きを始めた。

- ③ 今日はなんだか雨でも降りそうな気配だ。
ア テレビでも見ようか。
イ 急いでも間に合わない。
ウ それぐらいは子供でも知っている。

組 番 ()

問一 次の傍線部の付属語の中から助動詞を選び、○で囲みなさい。

- ① やつと 夏休みの 宿題が 終わった。
- ② 明日の 朝は どうやら 晴れそうだ。

問二 次の傍線部の中の「れる」が助動詞の「れる」ならば○、そうでないならば×を()に書き入れなさい。

- ① Yシャツのボタンが外れる。
- ② どろぼうにカバンを盗られる。

問三 次の動詞が「せる」か「させる」のどちらにつながるかを考えて○で囲み、さらにつながる形に直して()に書き入れなさい。

- ① 読む () () せる ・ させる
- ② 来る () () せる ・ させる

問四 次の()に助動詞「ます」を活用させて書き込み、文を完成させなさい。

- ① そんな難しい問題はでき()ん。
- ② 明日、みんなで海に行き()う。

問五 次の二つの文の傍線部のうち助動詞「だ」「です」が使われている文を選び、その記号を○で囲みなさい。

- ①
- ア あそこに咲いている花はとてもきれいだ。
- イ あそこに咲いているのはきれいな花だ。
- ②
- ア この辺りはとても静かです。
- イ 静かな場所はこの辺りです。

10

(1点×10)

問一 次の傍線部の付属語の中から助動詞を選び、○で囲みなさい。

- ① やつと 夏休みの 宿題が 終わった。
- ② 明日の 朝は どうやら 晴れそうだ。

問二 次の傍線部の中の「れる」が助動詞の「れる」ならば○、そうでないならば×を()に書き入れなさい。

- ① Yシャツのボタンが外れる。() ×
- ② どろぼうにカバンを盗られる。() ○

問三 次の動詞が「せる」か「させる」のどちらにつながるかを考えて○で囲み、さらにつながる形に直して()に書き入れなさい。

- ① 読む () 読ませる () (せる) ・ させる
- ② 来る () 来させる () (せる) ・ (させる)

問四 次の()に助動詞「ます」を活用させて書き込み、文を完成させなさい。

- ① そんな難しい問題はでき()ませ()ん。
- ② 明日、みんなで海に行き()ましょ()う。

問五 次の二つの文の傍線部のうち助動詞「だ」「です」が使われている文を選び、その記号を○で囲みなさい。

- ① ア あそこに咲いている花はとてもきれいだ。
- ① ア あそこに咲いているのはきれいな花だ。
- ② ア この辺りはとても静かです。
- ① 静かな場所はこの辺りです。

組 番 ()

問一 次の傍線部の付属語の中から助動詞を選び、○で囲みなさい。

- ① 私の弟は小学生だ。
 ② このクラスに転校生が来るらしい。

問二 次の傍線部の中の「れる」が助動詞の「れる」ならば○、そうでないならば×を()に書き入れなさい。

- ① 宿題をやって来るのを忘れる。
 ② 過去の出来事が思い出される。

問三 次の動詞が「せる」か「させる」のどちらにつながるかを考えて○で囲み、さらにつながる形に直して()に書き入れなさい。

- ① 持つ () せる ・ させる
 ② 止める () せる ・ させる

問四 次の()に助動詞「ます」を活用させて書き込み、文を完成させなさい。

- ① 「いらっしやい()」
 ② 本屋には昨日、行き()た。

問五 次の二つの文の傍線部のうち助動詞「だ」「です」が使われている文を選び、その記号を○で囲みなさい。

- ①
 ア いつでもていねいな仕事をするのは彼だ。
 イ 彼の仕事の仕方はいつでもていねいだ。
 ②
 ア このきれいな部屋は姉の部屋です。
 イ 姉の部屋はとてもきれいです。

10
 (1点×10)

問一 次の傍線部の付属語の中から助動詞を選び、○で囲みなさい。

- ① 私の 弟は 小学生 だ。
 ② この クラスに 転校生が 来る らしい。

問二 次の傍線部の中の「れる」が助動詞の「れる」ならば○、そうでないならば×を()に書き入れなさい。

- ① 宿題をやって来るのを忘れる。 () × ()
 ② 過去の出来事が思い出される。 () ○ ()

問三 次の動詞が「せる」か「させる」のどちらにつながるかを考えて○で囲み、さらにつながる形に直して()に書き入れなさい。

- ① 持つ () 持たせる () (せる) ・ させる ()
 ② 止める () 止めさせる () (させる)

問四 次の()に助動詞「ます」を活用させて書き込み、文を完成させなさい。

- ① 「いらっしやい(ませ)()」
 ② 本屋には昨日、行き(まし)()た。

問五 次の二つの文の傍線部のうち助動詞「だ」「です」が使われている文を選び、その記号を○で囲みなさい。

- ① イ 彼の仕事の仕方はいつでもていねいだ。
 ② イ このきれいな部屋は姉の部屋です。
 ③ イ 姉の部屋はとてもきれいです。